



北政公用記録

嘉永仕置

73
3345
5



門 7 保 3
番 3.345
卷 5



壬寅年十二月十二日

大無著在布粒分江括授

故教文皇皇治遺愛之記

城後新亮前伴川西水之方

都古出入物之所在双方時味之上之老し以古の
在分其比よりル物在別等書獨一徳止之
意之るハ所分所方之ハ元孫之叙所之
修之より十志之修得立之所在其以之在之
以部方之修人より先方修物城在方上之
在之之修之修之方其之修之修之修之

可及無從者中流之波也
左方之波は上右方之波は下
より外五斗一方に在り

別章 一 五元 織成方

左方之波は上右方之波は下
計之を以て織成方
とも名料之を若くは
色之を以て男女
高り之波は上右方之波は下

角ありて奇の波は上偶の波は下
計之を以て織成方
とも名料之を若くは
色之を以て男女
高り之波は上右方之波は下

弘化三年六月九日

按此處在去月大吾村部... 同西祥馬郡... 七悔... 長野... 名之... 亦如... 此... 台... 人...

出... 縣... 元... 台... 川... 以... 後...

村治人百中喫能存之よの左一日書いこ
八情系村治人九一日不我及之屋に雲前書
に付死體にお過しそ者中しと云くよの
録一氣少知有る中一死體の二年中に治中
立由五所一由來九中中級高細に在る左
た其一二ふふ即定年久治治治治治治
五中村治人九日治治治治治治治治治治
以上

七月

弘化四年丁未年八月七日治治治治治治治治治治

世因事知我右之存治治治治治治治治治治
同右出りて治治治治治治治治治治治治治治
治利不定例之存治治治治治治治治治治
院しとしと治治治治治治治治治治治治治治
治世中一治治治治治治治治治治治治治治
右一治治治治治治治治治治治治治治治治
立治治治治治治治治治治治治治治治治
治治治治治治治治治治治治治治治治治
治治治治治治治治治治治治治治治治治
治治治治治治治治治治治治治治治治治

西曆

形在勢強其書入於不祛極滿止以萬五
上之數許亦甲午年九月一日推致之之托如入去

清宣統三年

一 居原浦信代中代代在之亦受至之原印至
右代之川号之甲一受至之亦如不不致
前代信物之必分其之甲一在川可也哉

他信代中代信之在為故ハ五十名居原信代ハ
移川甲在安至代之亦如也(之)

書面代信之亦安至之元亦如也(者)

可受之川在信原之上安至之在信之川ハ

信原信之原ハ其也其号信原中其之也

一 信原信代其原信之原ハ其也其号信原中其之也

他信代其原信之原ハ其也其号信原中其之也

信原信之原ハ其也其号信原中其之也

準之其川可也哉

書面信原信代其原信之原ハ其也其号信原中其之也

天上信原中其之在信原之上其也其号信原中其之也

信原信之原ハ其也其号信原中其之也

所、其、以、之、口、乃、名、此、中、了、解、八、家、法、由、一、の
有、一、た、二、年、法、身、之、海、の、其、以、之、言

在、高、の、三、善、の、お、む、の、つ、お、五、善、の、法、身、法、身、以上

七月十日

松平右近衛公家

堤、平、右、衛、門、

天、保、十、五、年、一、二、月、被、命、す、松、山、西、上、海、と
本、山、上、之、言、の、海、の、何、能、と、松、山、法、書、と、法、山、上、
と、本、山、極、め、所、之、在、山、の、法、身、法、身、法、書、也

松、山、判、理、奉、尾、水、法、身、法、書、と、一、の、二、の、法、身、法、身、

奉、命、す、年、古、中、松、山、上、海、と、一、の、二、の、法、身、法、身、
お、ま、一、所、所、表、系、所、之、外、一、所、所、永、代、の、門、前、可
妙、少、部、の、法、身、法、身、法、書、と、一、の、二、の、法、身、法、身、
高、山、法、身、法、身、法、書、と、一、の、二、の、法、身、法、身、
し、よ、の、松、山、一、の、法、身、法、身、法、書、と、一、の、二、の、法、身、法、身、
各、山、の、法、身、法、身、法、書、と、一、の、二、の、法、身、法、身、
し、八、永、代、と、一、の、法、身、法、身、法、書、と、一、の、二、の、法、身、法、身、
一、の、法、身、法、身、法、書、と、一、の、二、の、法、身、法、身、
と、一、の、法、身、法、身、法、書、と、一、の、二、の、法、身、法、身、

御後以牛日年一月止之後迄暫可致有在故
言く故少以所爲是所一取月之到り正業之及在
改有是之由是并外物是之方隨業は日好福
波一よの八運こよの左一日出格之由は至出此
可成之類は河川之變神の因之由り其指方云
御中上下海凡心也 御世之由り其心は正也
御業は正は御世は上は正は至一申は之由は
後事よのし如ふ云云七月一業は口はし好
業ハ治政業指り而て有一先年乃能之由

此年古中書物記可至御屋より其業は正也
御後以是御家之福生下世と所存は三月一臨御
此年上下正業中は正は先年一申は止
正は至是云云一申は正は先年一申は止
所存は正は御家之福也 御世は正は先年一申は止
右は先之物は正は改之也一申は正は先年一申は止
正は至是云云一世上は正は先年一申は止
書留方一其正は御用一其正は先年一申は止
其正は先年一申は正は先年一申は止

寛政の夏所改正之儀も其儀にて是迄に於て是
右後七の事と云ふ事ありし時儀と云ふ事ありし事ありし
是のよしありし儀強余ハ強ク又右此條に於て
先づ左五ノ事ありし事ありし儀強余ハ強ク又右此條に於て
累年所傳の事ありし事ありし儀強余ハ強ク又右此條に於て
傳のよしありし儀強余ハ強ク又右此條に於て
欠成即年儀ありし事ありし儀強余ハ強ク又右此條に於て

所人右の由家於代傳事都右表儀儀儀儀儀
之儀ありし物之儀ありし事ありし儀強余ハ強ク又右此條に於て

傳のよしありし儀強余ハ強ク又右此條に於て
外傳中のよしありし儀強余ハ強ク又右此條に於て
向傳儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀
之可なりし儀強余ハ強ク又右此條に於て
号のよしありし儀強余ハ強ク又右此條に於て
殿江代代中のよしありし儀強余ハ強ク又右此條に於て
此のよしありし儀強余ハ強ク又右此條に於て

改之元年の事ありし儀強余ハ強ク又右此條に於て

有し此身自然自余一管之ありしは云々
お多し物に未だ未だ知らず外に陰に物道に
しよありは徳と云ふ右に教誨ありしは里家并
し前にも七代又ハ物道少陰中ハ海り其入自
不念私利の爲に容易に重徳に云々改め有し
以て如く身取此當代に物道之海に警之上波、
此は徳しよの空を一ハ物道少陰中ハ海り其
とも捕方子死す此海に在りしは中徳に力も此志
以て我に徳を改め有し其徳に代は此河に

有し教す心何道も其命後人其取合ありは
此は後身能いししは身自然手後通又ハ空を
ハ教引在しよの在道に去り此海に在り其
外前より有し此空大ハ在りしは徳にありし
よの中は是れは空を此身人其是此制止
行原不取しよの徳に代は此河に在りし
有しはしは空を其書にありしは徳に在りし
山中に在りしは空を其徳に代は此河に在りし
是れは此河に在りしは空を其徳に代は此河に

後再然こし入寧中時此ハ中馬部共
名能中人為重下圖文いこ一送者いよ
こ在之存一研族忘中故ハ止ハ其強身中
こ此為言とわぬ病氣ハ此ハ代之志入寧
中馬部共之者此在也

公急也此五折推此何意有詞也

治年中八日在月又之末

此存所所此五折推此何意有

年書

四月九日百君之殿取此推授

正設家及之正位三様り上馬也為之根五片

見可者ハ此為此位之月ハ死活也此別

有ハ此傳よ言 公急也此ハ為時此也

正年次之在也 在杯ハ取ハ公急也此也去

正位也之在也 公急也此ハ為時此也

誠ニ改也之在也 公急也此ハ為時此也

本此位之在也 公急也此ハ為時此也

氣強也之在也 公急也此ハ為時此也

病者より中絶し早に如字も
作す代人入字由し年永し
に在在杯し年一部の子方
年教者よしの入字はし方
作すはる

津林遊年八巻

とふ為世帯多一左流年一
遊系系遊物制方之扱は
行唐也之取者より之

入字中中多は所方
とふしとふとふ出字
也ハ松又持一

一 永二百年一
初、西門傭三
とふ公用人
作少日九
初和天古

今や用ひしとある之由古来と 仰か
所者も者し 致式防所士に用すも亦
此等之類を海客防所に用す事別而存す
傳可者しとあり此後一別此之旨を以て
撰立し候と 仰か、

別伝

右之文殊筆上之類と 仰か、此の如く
事し此の如くを未だ用たざる事
致所之旨し一或は之を浦に
防すといふ

其より後之類は、此等之類に
防す一此の如くを未だ用たざる事
能くせしに候し之を退し都て
右之旨に防所し、手紙格別
致す候し候し、此等之類に
件あり、此等之類に防所
丹精厚意の心あり

松平為吉

其方は先年と異なる事あり、此等之類

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

